

七 國語字音と朝鮮語字音との比較

國語の字音と朝鮮語の字音とを比較して、其の間の關係を求めようとすることは、頗る興味ある語學上の問題たるを失はぬが、之を精細に論究することは、中々容易の業ではない。今茲では兩者の頭音 (Initial sound) 及び末音 (Final sound) に關する簡單なる比較表を示すに止めて置かう。

一 頭音

頭音による
比較

頭音とは語の最初に來る音を指すのである。漢字音の頭音を論ずるに當つては種々なる方法が行はれようが、最も便利にして且つ分り易いのは支那韻學上の所謂三十六字母の分類に従ふことである。それで今此の字母を標準として、國語及び朝鮮語に於ける字音の比較を試みようと思ふ。

(字母)

(國語)

(朝鮮語)

一、見[○]、溪[○]、群[○]

カ行 (他[○]に[○]カ[○]行[○]の[○]少[○]數[○])

ㄱ

〔例〕江、企、其、懇、君、交、禁等

二、匣[○]、曉[○]

カ行 (他[○]に[○]カ[○]行[○]の[○]少[○]數[○])

ㄴ

〔例〕巷、戶、回、恨、寒、禍、護等

此の字母に屬する漢字は支那に於てもH音であるが、我が國語に於て之をKで表はしたのは、我れに古くH音の存在しなかつたことを證するものであると論せられて居る。

三、疑[○]

ガ行 (他[○]に[○]カ[○]行[○]の[○]少[○]數[○])

ㅇ

〔例〕玉、宜、魏、魚、言、瓦、牛等

四、心○審○邪○禪○

サ行、ザ行。

人

〔例〕松○師○西○山○隨○善○常○等

五、精○照○從○牀○

サ行（他にザ行の少數）

ス

〔例〕宗○紙○主○眞○專○從○助○等

六、清○穿○

サ行

メ

（他にスの少數）

七、日○

〔例〕忽○此○初○親○選○青○稱○等

ザ行（音漢）、ナ行（音吳）

ロ

八、端○知○定○澄○

〔例〕兒○二○女○人○然○健○柔○等

タ行（他にダ行の少數）

リ

（他にス、メ、ノの少數）

九、透○徹○

〔例〕東○都○單○當○丁○重○智○治○等

タ行（他にダ行の少數）

ミ

（他にス、メ、ノの少數）

一〇、泥○孃○

〔例〕通○土○太○天○湯○丑○恥○等

ダ行（音漢）、ナ行（音吳）

シ

〔例〕尼○女○怒○乃○內○暖○匿○擣○等

七 國字等と朝鮮語字等との比較

二、封[○]、旁[○]、並[○]、非[○]、敷[○]、奉[○]

ハ行、バ行

日、立

〔例〕封、悲、普、本、彼、風、編等

三、明、微

バ行(音漢)、マ行(音吳)

ロ

〔例〕木、美、武、沒、文、馬、亡等

三、影[○]、喻[○]

ア行、ヤ行、ワ行

ハ

〔例〕翁、移、沿、用、余、爲、遠等

四、來

ラ行

ニ

〔例〕籠、累、里、賴、連、羅、歷等

以上は兩者の簡單なる比較を示したに過ぎぬ。字母の研究は内地に於ては徳川時代より盛んに討究せられたが、朝鮮に於ては二三の學者によつて研究せられたに止まる觀がある。即ち彼の申叔舟、崔世珍の如きは、朝鮮が生める音韻學者の最も傑出した者であるが、彼等が字母の論をなすに當つては、字母に對して今日使用せられぬ一種の謠文を宛てはめて居る。今此等の詳細を茲に紹介するは最も興味ある事柄ではあるが、事餘りに枝葉に亘るから、一切省略することとする。

末音による
比較

「ッ」の長音
符を有する
もの

二 末音

末音とは語の最後に来る音を指すのである。此の比較をなすに當つては「奎章全韻」の如き韻書を使用することが便利である。

一、「ウ」の長音符を有するもの。

(イ) 江、講、絳の韻に屬する字の多くのものは、國語にてはアウ(ə)、朝鮮にてはang)となる。

〔例〕巷(カウ)、邦(ハウ)、江(カウ)等

(ロ) 豪、皓、號等の韻に屬する字の漢音はアウ(ə)、吳音はオウ(ə)であるが、朝鮮ではハ、豆となる。

〔例〕老(漢音ラウ、豆)、早(漢音サウ、豆)等

(ハ) 交、巧、效等の韻に屬する字の漢音はアウ(ə)、吳音はエウ(ə)であるが、朝鮮では豆となる。

〔例〕巧(漢音カウ、豆)、卯(漢音メウ、豆)等

(ニ) 東、董、送、冬、宋等の韻に屬する字の漢音はオウ(ə)であるが、朝鮮ではハ(ə)となる

(ホ) 鐘、腫、用等の韻に屬する字の漢音はオウ(ou)、吳音はユウ(yu)であるが、朝鮮ではウとなる。

(ヘ) 候、厚等の韻に屬する字の漢音はオウ(ou)であるが、朝鮮ではウとなる。

〔例〕重(漢音ヂョウチュウ)、勇(漢音ユウウ)等

(ト) 登韻に屬する字の漢吳音蒸、拯、證に屬する字の吳音はオウ(ou)であるが、朝鮮ではウとなる。

〔例〕增(漢音ソンウ)、興(漢音コウ)等

(チ) 尤、宥等の韻に屬する字の漢音はイウ(eu)であるが、朝鮮ではウ、ユとなる。

〔例〕舊(漢音キウ)、休(漢音キウ)等

(リ) 虞、麌、遇等の韻に屬する字の漢音はユウ(yu)であるが、朝鮮ではウ、ユとなる。

〔例〕須(漢音シユ)、注(漢音チュ)等

(ヌ) 概して梗、諍、清、靜、敬等の韻に屬する字の漢音はエイ(ei)、吳音はヤウ(yau)で

「イ」の長音
符を有する
もの
入聲音

あるが朝鮮では영となる。

〔例〕省(漢音シヤウイ省)、警(漢音キヤウイ警)、兄(漢音キヤウイ兄)等

此の現象は國語に於て最も著しく現はれ来るものである。

二、「イ」の長音符を有するもの。これは前條(ヌ)の場合を参照せよ。

三、入聲音。

(イ) 藥、陌、錫、職等の諸韻に屬する漢字は國語では「ク」「キ」、朝鮮語では「コ」となる

〔例〕各(リク)、黒(コク)、食(シヨク)、夕(セキ)、適(テキ)等

此の入聲音トは國語に於ては屢々カ行の音に改められて種々に應用せられて居る。次の地名の如きは其の一例である。

〔例〕色(シカ) 麻(シカマ) 安直(アヂカ) 美作(ミマサカ)

各務(カガミ) 安積(アサカ) 博多(ハカタ)

邑樂(オハラキ) 佐伯(サヘキ)

(ロ) 質、物、月、曷、黠、屑等の諸韻に屬する漢字は國語では「チ」「ツ」、朝鮮語では「ミ」となる。

〔例〕發(ハツ)、栗(リツ)、骨(コツ)、脫(ツツ)、八(ハツ)等

此の入聲 t は國語に於ては屢々行の音に改められて種々に應用せられる。
次の地名の如きは其の一例である。

〔例〕設樂(シダラ) 秩父(チチブ) 乙訓(オトクニ)

物理(モトロキ) 佳質(カシト) 益必(ヤケヒト)

(ハ) 緝合葉洽等の韻に屬する漢字は國語では「フ」又は「ッ」朝鮮語では「甘」となる。

〔例〕立(リツリツ)、執(シツジツ)、難(ザツザツ)、甲(ガツ)、葉(エツ)、合(ガフ)、答(ダフ)等

此の入聲 p は國語に於ては屢々行の音に改められて種々に應用せられる。
次の地名の如きは其の一例である。

〔例〕愛甲(アユカハ) 邑樂(オハラキ) 難太(サハダ)

合志(カハシ) 揖保(イヒホ) 給黎(キヒレ)

邑代(イヒシロ) 雜賀(サヒカ) 揖宿(イフスキ)

邑知(オホチ) 法吉(ホホキ)

四、撥音 撥音は古來韻學上喉内、舌内、唇内の三内に分類せられて居る。喉内とは

はに終る音、舌内とはに終る音、唇内とはに終る音を意味するのである。

今日の國語の發音では三内何れも「シ」の一字を以て書き表はされるが、朝鮮語では「○」「ㄱ」「ㄴ」の三種を區別して居る。

(イ) 東、冬、江、陽、蒸等の韻に屬する漢字は國語では漢吳音とも「ウ」を以て書き表はされるが、朝鮮語では「○」となる。

〔例〕空(공)、農(농)、邦(방)、兩(양)等

喉内の撥音が「ㄱ」であるところから、此の韻に屬する漢字は屢國語の鼻音的ガ行音を表はすに用ひられる。次の物名地名の如きは其の一例である。

〔例〕鐘(종)、禮(례)

相模(사가미)

香美(카가미)

伊香(이카가)

愛宕(おたぎ)

餘綾(ヨロギ)

久良(クラギ)

美囊(みなぎ)

當麻(タギマ)

望多(ウマダ)

香山(カグヤマ)

勇禮(イグレ)

(ロ) 眞、文、元、寒、刪、先等の韻に屬する漢字は國語では漢吳音とも「ン」を以て書き表はされるが、朝鮮語では「ㄴ」となる。

〔例〕引(인)、諫(간)、旱(건)、反(반)、半(반)等

舌内の撥音がナであるところから、此の韻に屬する漢字は、屢國語のナ行の語を表はすに用ひられ、又はナ行音に轉じて用ひられる。次の地名、物名の如きは其の一例である。

〔例〕 信濃 (シナノ)	因幡 (イナバ)	員辨 (イナベ)
引佐 (イナサ)	雲梯 (ウナデ)	男信 (ナマシナ)
乙訓 (オトクニ)	遠敷 (ヲニフ)	讃岐 (サヌキ)
散吉 (サヌキ)	敏馬 (ミヌメ)	信夫 (シノブ)
民太 (ミノタ)	半月 (ハニワリ)	半挿 (ハニサフ)
白粉 (ハフニ)	菟弱 (コニヤク)	木蘭 (モクラニ)
紫宛 (シヲニ)	牽牛子 (ケニコシ)	近衛 (コノエ)
薰衣 (クヌエ)		

r 音が n 音と略々發音位置を同じうする (鼻音ではあるが) ところから、此の舌内漢字の韻が國語のラ行音に轉じて用ひられた例も少なくない。次の如きは其の一例である。

〔例〕 讚[○]良[○] (サ[○]ラ[○]ラ)

駿[○]河[○] (ス[○]ル[○]ガ)

訓[○]覇[○] (ク[○]ル[○]ヘ)

播[○]磨[○] (ハ[○]リ[○]マ)

群[○]馬[○] (ク[○]ル[○]マ)

訓[○]覓[○] (ク[○]ル[○]ベ[○]キ)

平[○]群[○] (ヘ[○]グ[○]リ)

敦[○]賀[○] (ツ[○]ル[○]ガ)

(ハ) 侵[○]覃[○]鹽[○]咸[○]等の韻に屬する漢字は、國語では漢吳音とも「」を以て書き表はされるが、朝鮮語では「口」となる。

〔例〕 森[○] (シ[○]ン[○]サ[○])、禁[○] (キ[○]ン[○]ゴ[○])、染[○] (シ[○]ン[○]ヤ[○])、南[○] (ナ[○]ン[○]サ[○]) 等

唇内の撥音が「マ」であるところから、此の韻に屬する漢字は、屢國語の「マ」行の語を表はすに用ひられ、又は「マ」行音に轉じて用ひられる。次の地名、物名の如きは其の一例である。

〔例〕 伊[○]參[○] (イ[○]サ[○]マ)

美[○]含[○] (ミ[○]グ[○]ミ)

志[○]深[○] (シ[○]ジ[○]ミ)

惠[○]曇[○] (エ[○]ド[○]モ)

龍[○]膽[○] (リ[○]ウ[○]タ[○]ム)

男[○]信[○] (ナ[○]マ[○]シ[○]ナ)

玖[○]潭[○] (ク[○]タ[○]ミ)

印[○]南[○] (イ[○]ナ[○]ミ)

陰[○]陽[○] (オ[○]ム[○]ヤ[○]ウ)

灯[○]心[○] (ト[○]ウ[○]シ[○]ミ)

安[○]曇[○] (ア[○]ヅ[○]ミ)

美[○]談[○] (ミ[○]タ[○]ミ)

南[○]佐[○] (ナ[○]メ[○]サ)

花[○]柑[○]子[○] (ハ[○]ナ[○]カ[○]ム[○]シ)

三[○]郎[○] (サ[○]ム[○]ラ[○]ウ)

三衣匣(サムエノハコ)

汗衫(カサミ)

至心(シシモ)